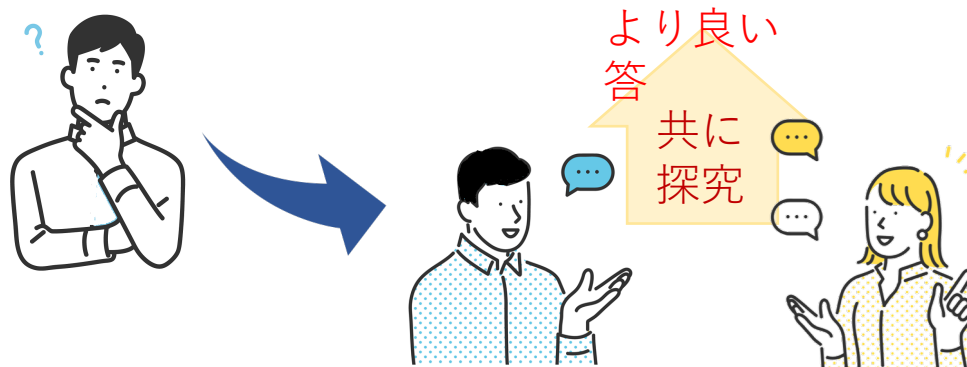


今、長野県で話したいこと

今、長野の地域で起きていること、これからの地域に必要と思うことを、まちむら寄り添いファシリテーター養成講座の修了生や地域コーディネーターの方が持ち寄りました。
みなさんも一緒に考えてみませんか？

問いかけることから始まる

- ◆自分一人で答を出すのではなく、
 - 他の人の**視点、経験**も持ち寄り、
 - 集う人の**相互作用**を起こすことで、
 - それぞれが自分の**考え方、物事の見方**を拡張し、
 - 共により良い答は何か、**共に探究**する。
- ◆そのような**対話**が始まるきっかけを提起する。



地域の助け合いが進むには？ ~なぜ「人に迷惑をかけちゃいけない」と思うんだろう~

誰かを助けたい！と思っている人はたくさんいる一方で、困ったときに誰かに助けを求めるのは難しいもの。

その背景にある「他人に迷惑をかけちゃいけない」という気持ちがなぜ生まれるのか、みんながお互いに助け合える地域を作るにはどうしたら良いのか、考えてみませんか。

#受援力 #共生社会 #居場所づくり



テーマ提供者：北澤孝代さん

活動場所：駒ヶ根

テーマ提供者より：

駒ヶ根で子ども食堂や障がい児を持つ家庭の支援を行う中で、助けたい人と助けてほしい人の間に見えない壁があることに気づきました。駒ヶ根以外にもいろいろな地域で一緒に考えることができるテーマだと思います。

子育て・福祉などに興味がある人はもちろん、自治体職員の方や大学生など幅広い立場からの意見もぜひ聞いてみたいと思います！

一緒に話しましょう！

「ここに住みたい」と思える地域をどうやって作るか？ ～地域のビジョンをみんなで描いてみよう～

「地域の魅力発信」で自分たちの住んでいる場所に魅力を感じてくれる人、特にそんな若者を増やしたいという思いは様々な地域で共通しています。そこで、まずは地域に関わる若い世代とともに改めて地域の魅力を共有し、これから私たちが住みたいと思える地域を描いていきながら、ありたい地域の未来を想像してみませんか？

#地域の魅力 #シビックプライド #若者の地域参画



テーマ提供者：関口郷子さん

活動場所：飯田市千代

テーマ提供者より：

2030年の試算で人口の減少（特に若者の流出）が顕著な飯田市千代は、まちづくり委員会、NPO、地域運営保育園、協力隊、ふるさと大使が連携して、四季折々の催事・農業・地域活動への子供の参加をサポートし、その様子を魅力発信をしています。

今年は、若い世代から女性・年配の方など、地域住民の地域への愛着の向上（シビックプライド）を引き出したいと思い、

テーマは「子供たちにとってどんな故郷（地域）にしていきたいのか？」

また、「若い世代が描く（望む）地域の未来とは？」。このテーマを共有してどのように参加してもらうか、どんな場（集まり）に出向いていくか、将来の転出者の抑制やUターン、定住志向のきっかけになればと思っています。



住民同士でのコミュニケーションを活性化するには？ ～地域にある自然をひらき、どう活かしていくのか～

山林は長野県の約8割を占めており、地域の中でもっとも身近にある自然資源です。しかし活用方法が多様な一方、管理の視点から自由に使うことが難しい現状にあります。そこで、地域の「自然」「山」を活かして地域のつながりづくりをどう進めていくのか。地域の大切な資源だからこそ、地域に住むみんなで考えてみませんか？

#自然資源 #古道探索 #住民同士のコミュニケーション

テーマ提供者：山口純平さん

活動場所：朝日村



テーマ提供者より：

私は東筑摩郡朝日村役場に勤める行政職員です。以前私が公民館担当だった時に過去の公民館報を調べていたところ、朝日村の山の頂上に当時の青年団の有志が小さな山小屋を建てたという記事を見つけました。これに興味を持って様々な人に話を聴くと、林業、キノコや山菜採集、遠足やハイキング、信仰の行程など、当時は多くの人々が様々な目的で山に入っていたことが分かってきました。かつて人が通った古道が朝日村やその周辺にあるならば、その古道を探検して明らかにする事で「山」が持つ多様な資源の活用のヒントとなり、また、その過程に山に関わる様々な人と一緒に取り組むこと自体が「対話の場」になるのではないかと考えています。

集う人がワクワクできる場とは？ ～地域に関わってみたいと思える活動ってなんだろう～

地域活動をしたいと思える人がだんだん少なくなっているという課題を抱えている地域は多いのではないのでしょうか？義務的に行うものではなく、住民同士のつながりを生んだり、居場所になったり、地域の人がワクワクして楽しめるようなものだったら良いですね！
そこで、地域の若者を中心に「集う人がワクワクできる場のあり方」を考えてみませんか？

#若者の参加 #場の化学反応 #新しい価値が生まれる場づくり

テーマ提供者：高橋茂さん

活動場所：飯田市



テーマ提供者より：

飯田市は公民活動が盛んですが、昨年度、このまちむら寄り添いファシリテーター養成講座で地域の地域の方々へインタビューしていく中で、自主的に活動している方もいれば、地区の輪番で仕方なく活動しているという人も多くいるということが分かりました。自治活動が強制されて行われるのではなく、その活動に参加する人がワクワクして楽しめるようなものってどのような場なののでしょうか。

そして、同世代だけではなく、様々な世代の方々が集まり、交流することで、新しい価値が生まれる場所ってどういう場なののでしょうか。

様々な活動において、主催者だけでなく、そこへ参加する人全員がワクワクする活動とはどんな活動でどのような場なののでしょうか。

皆さんと考えていきましょう。

商店街を思いっきり楽しむには？ ～人の繋がり の拠点となる商店街の姿について考えよう～

近年、地域が抱える課題として人口減少や高齢化に並ぶものとして「商店街・繁華街の衰退」があげられています。商店街はつい物を売り買いするだけの場所と見られてしまいがちですが、様々な人の出会いや繋がりを生み出す場所でもあります。そこで、今一度商店街の意味を捉え直し、商店街の魅力や楽しさを分かち合ってみませんか？

#商店街 #魅力発見 #みんなでつくる商店街

テーマ提供者：竹脇恵美子さん 活動場所：木曽町

テーマ提供者より：

今、木曽の町では「木曽わたし市」「きまぐれマルシェ」「きそだにマーケット」「木曽街角ピアノ」「木曽の手仕事市（2021年は中止）」など、商店街を舞台にした様々なイベントが展開され、普段は車で通り過ぎてしまう人もゆっくりとお店を巡ることを楽しんでいるように見えます。

そう、木曽の町は見どころ満載！木曽川に流れ込む水の音、迫る山並み、異世界へ誘う狭い路地裏は、歩かないと見つけれない宝箱。土地の狭さを工夫した崖屋作りの建造物、昭和レトロな店舗群、誰もが顔見知りな安心感。

高齢化の波に押される旧店主と新たな可能性を感じて出店するワカモノと、様々な化学反応をもっと広げて、もっと楽しさあふれる商店街を楽しみたい！

そんな商店街をもっと楽しみたい人が集まって「（勝手に）商店街活性妄想会議」を開催したいと思います。

商店街が生き生きしたら、人もまちもきっと生き生きする。一緒に楽しみたい人、集まれ～！



コロナの経験を、次の地域づくりに生かすには？

新型コロナウイルスの感染拡大は地域活動の休止等、地域のつながりを大きく揺るがしました。その一方で、従来無かった発想が生まれたり、地域の新しい可能性が見えてきたり、ポジティブな変化も起きたのではないのでしょうか？

この経験を、今後変わり続ける地域を生きていく上でのヒントとするには、どうしたらいいのでしょうか。

コロナ禍で地域に起こった変化を振り返り、そこで感じたことや活動の工夫を分かち合い、次の地域づくりに生かしていくために必要なことは何か地域で考えてみませんか？

#地域活動の工夫 #経験の共有 #ノウハウの蓄積

長野の強みを活かし、課題を補うデジタル活用とは？

昨年から注目を集めるキーワード「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」。

長野県にとっても、地域の距離を超えて交流できるオンライン交流、高齢化・過疎化に対応するための地域モビリティ、気候変動対策、循環型社会、農業の高付加価値化など、地域の課題を新しい技術と組み合わせ、使いこなすことができれば、地域の暮らしはもっと豊かになっていくのではないのでしょうか？

長野でオンラインやデジタル技術、データをどう活用できるのか、またそれによって地域の可能性がどう広がっていくのか、みんなで考えてみませんか？

#地域のデジタル活用 #DX #トランスフォーメーション